

- 需要を取り込み、新規顧客を獲得
- 自社機材で多彩な撮影用途への対応
- クロマキー合成が可能に

神成株式会社

防災設備工事、電気工事、放送・映像設備工事、映像制作

平成30年度 革新的サービス 設備投資
H30 小規模型自社機材を備え多彩な撮影が可能に
映像制作、配信をトータルで提案

クロマキー合成をはじめ多彩な用途に対応するスタジオ

会社の概要

当社は神成防災有限会社として平成17（2005）年に創業し、消防用設備の工事、保守点検を手掛けながら、電気設備工事、弱電設備工事に参入。設計・施工からアフターフォローまで一貫体制で対応し業績を伸ばしてきた。長年のノウハウを基に防災コンサルティングも行う。

令和元（2019）年に改組し現社名に変更。新事業として放送・映像設備工事や映像の制作・編集を手掛けるAVC（Audio Visual&Communication）事業部を立ち上げた。映像制作の企画

提案から撮影、配信、納品までワンストップで対応できる強みを生かし、新型コロナウイルス感染症拡大以降急増している動画のオンライン配信の要望に応え、さまざまな需要を取り込んでいる。令和3年2月には富山駅近くにスタジオ「Sauce by KAN-NARI」を新設。多彩な映像制作に的確かつ迅速に対応する環境を整えた。また、北陸では唯一とされる最新映像機器のショールーム兼ショップも併設している。

補助金事業の内容

近年動画配信サービスをはじめ、

広告・PRでも映像の活用が進み、全国的には映像制作、配信事業への参入が増えている。しかし、北陸には映像・音響システムに精通し、撮影、配信などをトータルで手掛ける業者がなく、首都圏などの業者に依頼すれば多大なコストがかかるという、北陸地域の顧客にとって映像制作は高いハードルとなっていた。

また、当社でも、商業施設や店舗、公共施設などの電気設備工事に携わるなかで、デジタルサイネージ（電子看板）の設置や、そこで流す映像について相談を受けることが増え、映像制作への需要を感じていた。電気・防災工事に付随して、防犯・監視カメラシステムや、避難誘導などの放送・映像システムの設計・施工、機器修理などで培ったノウハウも生かせるとして、令和元年に映像制作、配信事業に参入した。

当初は本社内にスタジオを設け、機材はレンタルするなどして対応していた。しかし、レンタルでは撮影、制作に限界があり、顧客に費用対効果の高い多彩な映像サービスを提供していくため、補助金を活用して自社で機材をそろえることにした。

補助金事業の成果

大型タッチディスプレイや4Kカメラ、画面の切り換えを行うスイッチャーといった高性能な機器や、切



補助金を活用して導入した大型タッチディスプレイ

会社データ

設立

代表

所在地

TEL/FAX

URL

資本金

従業員数

取扱製品

令和元年9月

杉下 洋一

本社：富山市婦中町鶴坂138-1
AVC事業部：富山市新富町1丁目4-21セレナヴィラ1階

TEL:076-465-3002 FAX:076-465-3003

https://kannari.work/

400万円

19人

消防用設備の施工・保守メンテナンス、放送設備、テレビ共聴設備、LAN・電話工事、一般電気工事、撮影・編集、配信サービス、映像関連機器販売

り抜き合成の一つであるクロマキー合成のための布と周辺機材などを自社で備えたことで、多様なニーズに対し質の高い撮影で応えられるようになった。さらに、パッケージ料金でリーズナブルな価格設定とした。

新規顧客の開拓が進むなかで、コロナ以降はオンライン会議や動画配信、Zoomの配信など大小さまざまな依頼が飛び込み、受注数は月十数件から、年間300件以上へと急増した。特にホールやホテル使用に制限があった時期は、北陸初のクロマキー合成に対応する当社スタジオにて、対談や会見、企業研修の収録やライブ配信、大型タッチディスプレイを活用しての塾や学校向け教材の収録などを実施できた。

自社機材は急な依頼や出張撮影に対しても柔軟に対応でき、リアル会場での発表会やコンサート、eスポーツの生中継のほか、住宅のオン

ライン内見会も手掛けて好評を得た。リアルとオンライン双方で開催するハイブリッド形式のイベントが標準的になりつつあり、リアル会場の演出も任されるケースも増えている。単なる制作、配信にとどまらず、イベント全体にかかわる事業へと広がっている。

今後の展望

現在、映像制作、配信事業は北陸での受注がほとんどを占めるが、概ね口コミで新規顧客が開拓できており、北陸以外の地域からの依頼も増え始めている。将来的には全国展開を視野に入れ、よりきれいで見やすい映像を追求し、背景デザインなどで富山らしさを出す工夫などオリジナリティを盛り込むことにも力を入れる。

映像収録と配信を手掛けた有名ミュージシャンのコンサートでは、コンサート終了とともに収録した映像を記録メディアに複製して販売するという試みを実現させた。オンラインのイベントでは、配信する側と参加者がどう触れ合うかといった視点でプランづくりからかわる。配信を見る視聴者まで意識したフローの提案、オンライン配信で収益を補う仕組みづくりへの助言なども強みとしていく。



コンサートの映像収録や配信も手掛けている



補助金を活用して導入した多様な映像制作、配信を可能にする機器